

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870105628
法人名	(有)ティーエムコーポレーション
事業所名	グループホーム すみれの丘
所在地	松山市梅津寺町町乙56-214
自己評価作成日	平成23年10月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成23年11月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

梅津寺の閑静な高台にあり、リビングから四季折々の瀬戸内の海を一望できます。テラスから見える三津浜の花火大会は絶景で、入居者様もご家族も毎年楽しみにされています。恵まれた環境で入居者様は穏やかな生活を送ることができます。また季節にあわせた外出を出来るだけ行い、入居者様に四季を感じながら、楽しんで頂けるようにしている。  
地域との連携を大切にしており、地域活動には参加するだけでなく、ときには準備から後片付けなど行ない、地域の一員として積極的に働きかけるようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域行事への参加だけでなく準備や後片付けも行い、地域の一員として信頼関係を構築している。利用者や家族の思いを大切にしながら、全職員は感謝の気持ちと傾聴を心がけており、優しく寄り添うケアを実践している。職員のチームワークもよく、研修や勉強会にも積極的に参加する等、よりよいケアを行えるよう研鑽に努めている。また、家族も安心できるよう声かけや連絡等を細やかにに行い、共に利用者を支えていく関係を築いている。事業所からは海が一望でき、明るくゆったりとした空間で利用者のペースで穏やかにケアが行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まれます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まれます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まれます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム すみれの丘

(ユニット名) そら

記入者(管理者)

氏名 岩城 恵子

評価完了日 23 年 10 月 15日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作成し、職員や来客者の目につきやすい場所に掲示し、理念に基づき、日々ケアに取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 地域との繋がりや利用者との信頼関係の構築、その人らしい生活を大切にするという趣旨の理念を、ユニットごとに職員間で話し合い作成している。わかりやすい簡潔な文体は、訪問者に見てもらえるよう玄関にも掲示している。職員は常に理念を意識してケアの実践を行っている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域の行事(盆踊り大会・運動会・文化祭など)の際には、準備や後片付け、また町内の清掃にも参加し、祭りには神輿を担ぐなど事業所からも積極的に地域の一員としての役割を果たすよう努めている。</p> <p>(外部評価) 管理者が積極的に地域に出かけたり、事業所全体で町内の清掃や行事に参加する等している。地域行事に利用者のための席が設けられる等、地域との信頼関係が構築されている。納涼祭は利用者や家族、地域住民、ボランティア等、多数の参加がある。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 運営推進会議や公民館での集いを利用し、グループホームでの生活を見て頂き、気軽に見学、相談できるようにしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月に1回会議を開き、地域の方々と様々な情報交換を行っている。また入居者様も出席され、ホームでの生活について話して頂いている。	
			(外部評価) 町内会長や民生委員、家族等に参加してもらい、2か月に1回開催されている。事業所の行事報告や利用者の状況の説明、その時々に応じた議題が取り上げられており、看取りについて話し合われる予定もある。職員も数名参加し、積極的に意見交換が行われている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 市町村担当者には運営推進会議などの機会を利用して、事業所の実情などをお伝えしている。また、電話や直接訪ねたりすることで相談にもものって頂いている。	
			(外部評価) 市担当者は運営推進会議に毎回出席しており事業所の状況も把握し、日頃から相談できる関係が構築されている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束については勉強会などで、スタッフ全員が理解・把握できるようにしている。施錠はしておらず、入居者様が自由に散歩できるように支援している。	
			(外部評価) 身体拘束については研修会や勉強会で理解を深めている。また、ショートミーティング等で拘束をしないケアについて職員間で話し合い、意見交換等をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 高齢者虐待防止法については、職員が研修会に出席し、学ぶ機会を設けている。またショートミーティングの時間に意見交換なども行い、未然に防ぐよう努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修会やケアマネ連絡会などに管理者や職員が積極的に出席し、学ぶ機会を持ち、必要時に活用できるようにしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約または解約、改定などの時には入居者様やご家族様に不安や疑問について聞き、十分な説明を行い、理解、納得して頂けるよう努めている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族会や来所時には、こちらから積極的に声かけし、意見、要望をお聞きするようにしている。玄関の意見箱にはいつでも自由に投稿できるようにしている。	
			(外部評価) 職員から面会に訪れた家族へ声をかけ利用者の様子を伝えるようにしている。家族会を開催する等、家族が意見や要望を話しやすいよう雰囲気づくりを心がけている。聞き取った意見や要望は、記録をして全職員が把握し、サービス向上に反映させている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 毎日のショートミーティングや月に1回のユニット会議の場で、職員は意見や提案をし、本部で2週間毎に開かれる管理者会議でその旨を発言、報告している。</p> <p>(外部評価) 毎日のミーティングや月1回のユニット会議等で職員が意見や提案を出すこともあるが、管理者は日頃から職員に声かけをし、意見や要望を言いやすい環境を整えるよう努めている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 個別での面談を行うことで、各自がやりがいの持てる職場環境や条件の整備に努めている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 全職員に積極的に外部研修に参加するよう促し、参加者にはレポートを作成してもらい、知識や情報を同水準で共有できるよう努めている。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) グループホーム連絡協議会や地域包括支援センター主催の会には参加し、他事業所との意見や情報の交換を行っている。すみれグループの各事業所については、管理者会議を通じ、ネットワークづくりをしている。</p>	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 生活歴や既往歴を踏まえて、本人の行動を把握し今不安に思っていることや困っていることを探り、解決できるように努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族の要望や不安に思っていることに耳を傾け家族が納得されるまで話し合い、信頼関係が構築できるよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人と家族の話しから今必要としているサービスを探り、提供できるよう努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 本人が「できること」と「できないこと」を理解し、家事などのお手伝いなどをして頂いた時には感謝の気持ちを伝えている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 来所時や電話にてできるだけ情報や要望を聞き、理解した上で一緒に考え協力を得ながら、支えていけるよう努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みの美容室や病院なども希望により引き続き利用している。また電話での取り次ぎや面会も自由にして頂き、これまで大切にしている人や関係が途切れないよう支援している。  (外部評価) 今まで利用していた美容院等の馴染みの場所に出かけ、馴染みの関係が継続できるよう支援が行われている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 入居者同士の関係については、職員がさりげなく間に入ることで、トラブルなどを未然に察知し、防ぐようにしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 次所にはサマリーを提供し、環境変化を最小限にできるように頂いている。契約終了後も必要に応じ、相談にのれるような態勢を作っている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 入浴や食事などの希望にできるだけ応えるようにし、本人の生活のペースを大切にしている。  (外部評価) 思いや意向を伝える事が困難な利用者については、表情や普段の様子等から思いを汲み取り利用者本位のケアが提供できるよう努めている。利用者一人ひとりの思いや希望を大切にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 生活歴シートを作り、ケアプランに反映している。また、毎日ケアチェック表を活用し、経過の把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 介護記録にはできるだけ細かく記録し、申し送りや毎日のミーティングで問題点や個別の支援方法を話し合い、実行するようにしている。	



自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 職員一人ひとりが担当をもっているが、情報を共有した上でそれぞれ意見を出し合い、本人や家族の希望を取り入れながら作成している。	
			(外部評価) 利用者と家族の意見を聞きながら担当者を中心に職員で話し合いを行い、利用者の現状に合った介護計画を作成している。毎日記録する利用者一人ひとりのケアチェック表で介護目標が確認できるように工夫されており、常に意識してケアが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 具体的に会話内容や精神面・身体面など気づいたことを記入し、職員間で情報を共有しながら、毎日のケアにも活かすようにしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人や家族から希望がある時は、ホームで出来る限り通院介助や買い物などを柔軟な対応をしている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域行事に参加し、地域資源との共同を図っている。また、入居者が外に出られ、行方が分からなくなった時は、町内放送をお願いし、地域に協力して頂けるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 日頃から、本人や家族の希望を大切にしている。入居 前には馴染みの病院に行かれている方もおられたが、 現在ほとんどの方は医療連携をとっているクリニック の往診を受けている。  (外部評価) 希望によりほとんどの利用者が事業所の協力医をかか りつけ医としており、2週間に1回の往診を受けてい る。専門科については今まで受診していた医療機関を 継続して受診する利用者もおり、利用者と家族の希望 を大切にしている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 看護食にも随時相談しているが、往診表を作り活用し ている。それにより適切な往診が受けられるようにし ている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院した際には、できるだけ面会に行き、病院関係者 との情報交換や相談を行い、家族との連絡も密にして いる。ムンテラの際にはできるだけ家族と一緒に参加 し、その旨はかかりつけ医に報告している。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 重度化した場合の方針については、事前に家族と十分 に話し合いを行っている。その時、ホームでできるこ とについては家族に説明し、了解を得ている。  (外部評価) 看取りの指針を作成し、職員への教育も行い看取りや 重度化に対応できるよう体制を整えている。看取りに ついてのアンケートを実施し家族の意見や要望を把握 している。事業所ができる事を説明し、可能な限り家 族の希望に沿えるよう話し合いながら支援に努めてい る。	状態や状況の変化に応じて繰り返し話し合いを行い、 利用者や家族の意向を確認しながら看取りのケアが行 われるようさらなる取り組みに期待したい。また、重 度化や終末期の対応について職員教育を今後も継続し て行うよう希望したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急時の対応については、ホーム内で勉強会を行ったり、外部研修にも参加し、実践に役立つよう心がけている。夜間など、人員が減った時も連携を図れるようにしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的に西消防署の署員に来て頂き、訓練・指導をしてもらい、火元や避難場所の設定も行っている。  (外部評価) 地震や津波が起こった場合に備えて話し合いを行い、マニュアルを作成している。また、居室のテレビや家具を固定したり、数日分の備蓄を準備している。今後は地震想定訓練を行う予定である。	さまざまな場面を想定しての地震対応の避難訓練を地域と連携して行い、安全確実に避難できる体制を整える取り組みに期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 言葉かけや、接し方について気になることがあれば、職員同士で指摘し合い、注意している。特に排泄介助や入浴などについては、プライバシー確保に努めている。  (外部評価) 利用者に対して思いやりの心を大切にし、一人ひとりの人格を尊重し優しく寄り添い、自己決定しやすい声かけを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 出来る限り、選択肢の多い中で、自分で決められる「開かれた質問」をするよう心がけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 本人の生活のペースを大切にして、入浴や食事の希望にできるだけ添えられるようにしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 本人の希望に添った髪型や服装などの身だしなみや清潔の保持に配慮している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) すべての入居者と話しができるよう職員を配置し、楽しい雰囲気づくりに努めている。食事中の会話からも本人の好みなどを探るようにしている。	
			(外部評価) 食事は利用者の好みを取り入れながら、職員手作りのバランスの良い食事となっている。利用者と職員と一緒にテーブルを囲み、会話をしながら楽しい食事の時間となっている。支援の必要な利用者には優しく寄り添い、利用者のペースに合わせて介助が行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量や食事内容を一人ひとりの状態や好みにより変えているが、栄養バランスにも配慮している。必要時には水分量を記録し、健康面に注意している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後には、口腔ケアを行っている。出来るだけ自分でして頂くようにしているが、不十分などところがないよう職員が仕上げを手伝うこともある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄管理表を活用して排泄パターンを探り、訴えのない方は時間誘導し、できるだけ失敗やオムツ内の排泄とならないよう支援している。	
			(外部評価) 排泄パターンを管理表で個別に把握し、できる限りトイレで排泄できるよう声かけや誘導を行っている。便秘対策にも力を入れており、気持ち良く排泄できるよう支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 運動や水分補給の声かけをし、食品も乳製品や食物繊維を多く摂れるよう工夫し、薬や浣腸に頼らないようにしている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 特に希望のない方は、曜日や時間帯を決めていない。ゆったり話しながら入浴を楽しんで頂けるよう支援している。	
			(外部評価) 週に2～3回の入浴を希望に合わせて行っているが、状態によって足浴等を行っている。入浴の苦手な利用者に対しては声かけのタイミングを工夫し、気持ちよく入浴してもらえるよう支援している。浴室にはリフトが設置してあり、利用者の状態に合わせて安全に入浴できるようになっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中はできるだけ散歩やレクなどで充実できるようにしている。寝具は使い慣れた物を用い夜間安心して休めるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬ボードやファイルを作り、わかりやすい工夫している。病状の変化があった時は、早急にかかりつけ医の指示を仰ぎ、薬の変更などについてはその都度、口頭や記録などで連絡が漏れないようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 本人の生活歴を大切に、好きなことや嗜好品を出来るだけ続けられるよう支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 車椅子でも散歩できるよう敷地は整備され、車での外出についても下見を行った上で実行している。地域の方々が協力して下さり、運動会や盆踊りなどでの地域行事では優先席も準備して頂いている。	
			(外部評価) 日常的に近くのスーパーに買い物に行ったり、生演奏が聴ける喫茶店に出かけている。また、利用者の希望により動物園に出かける等、利用者本位の外出ができるよう努めている。海が見渡せる高台に位置しており、広いテラスに出て日光浴を楽しむことができる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 自分で金銭管理が出来る方は、家族の了解を得て、自由に使えるよう所持して頂いている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話の取り次ぎはもちろん希望により家族に電話できるようにしている。手紙についても、書いて頂いたものはポストへの投函はお手伝いしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 廊下やリビングは広く、落ち着いて過ごせるつくりになっている。また、浴室やトイレ以外も清潔に気を配っている。リビングの壁は一角は季節感のある飾りつけをするようにしている。	
			(外部評価) 食堂の大きな窓からは海を見渡す事ができ、明るくて広い共用空間が確保されている。テーブルには花を飾る等季節感を取り入れ、温かい雰囲気づくりがされている。また、ソファが設置され、思い思いの場所でゆっくりと過ごせるように工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビングにはソファが置いてあり、いつでも自由にくつろげるようにしている。ベランダには、ゆっくりと座って景色を眺められるようベンチも設置している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室には、昔から使っている物など、馴染みのものや入居後に買い揃えた物もあり、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
			(外部評価) ベッドとダンスは備え付けである。昔から使っている物や馴染みの物を自由に持ち込み、居心地のよい居室づくりがされている。利用者が写っている行事や外出時の写真が飾られ、落ち着いた雰囲気の中で寛ぐことができるよう工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 一人ひとりの「できること」の把握に努め、それらを活かし、自立した生活を送ることができるよう手すりをつけるなどの環境づくりをしている。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870105628
法人名	(有)ティーエムコーポレーション
事業所名	グループホーム すみれの丘
所在地	松山市梅津寺町町乙56-214
自己評価作成日	平成23年10月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成23年11月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

梅津寺の閑静な高台にあり、リビングから四季折々の瀬戸内の海を一望できます。テラスから見える三津浜の花火大会は絶景で、入居者様もご家族も毎年楽しみにされています。恵まれた環境で入居者様は穏やかな生活を送ることができます。また季節にあわせた外出を出来るだけ行い、入居者様に四季を感じながら、楽しんで頂けるようにしている。  
地域との連携を大切にしており、地域活動には参加するだけでなく、ときには準備から後片付けなど行ない、地域の一員として積極的に働きかけるようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域行事への参加だけでなく準備や後片付けも行い、地域の一員として信頼関係を構築している。利用者や家族の思いを大切にしながら、全職員は感謝の気持ちと傾聴を心がけており、優しく寄り添うケアを実践している。職員のチームワークもよく、研修や勉強会にも積極的に参加する等、よりよいケアを行えるよう研鑽に努めている。また、家族も安心できるよう声かけや連絡等を細やかにに行い、共に利用者を支えていく関係を築いている。事業所からは海が一望でき、明るくゆったりとした空間で利用者のペースで穏やかにケアが行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		



(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム すみれの丘

(ユニット名) うみ

記入者(管理者)

氏名 岩城 恵子

評価完了日 23 年 10 月 15日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作成し、職員や来客者の目につきやすい場所に掲示し、理念に基づき、日々ケアに取り組んでいる。	
			(外部評価) 地域との繋がりや利用者との信頼関係の構築、その人らしい生活を大切にするという趣旨の理念を、ユニットごとに職員間で話し合い作成している。わかりやすい簡潔な文体は、訪問者に見てもらえるよう玄関にも掲示している。職員は常に理念を意識してケアの実践を行っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域の行事(盆踊り大会・運動会・文化祭など)の際には、準備や後片付け、また町内の清掃にも参加し、祭りには神輿を担ぐなど事業所からも積極的に地域の一員としての役割を果たすよう努めている。	
			(外部評価) 管理者が積極的に地域に出かけたり、事業所全体で町内の清掃や行事に参加する等している。地域行事に利用者のための席が設けられる等、地域との信頼関係が構築されている。納涼祭は利用者や家族、地域住民、ボランティア等、多数の参加がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議や公民館での集いを利用し、グループホームでの生活を見て頂き、気軽に見学、相談できるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月に1回会議を開き、地域の方々と様々な情報交換を行っている。また入居者様も出席され、ホームでの生活について話して頂いている。	
			(外部評価) 町内会長や民生委員、家族等に参加してもらい、2か月に1回開催されている。事業所の行事報告や利用者の状況の説明、その時々に応じた議題が取り上げられており、看取りについて話し合われる予定もある。職員も数名参加し、積極的に意見交換が行われている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 市町村担当者には運営推進会議などの機会を利用して、事業所の実情などをお伝えしている。また、電話や直接訪ねたりすることで相談にもものって頂いている。	
			(外部評価) 市担当者は運営推進会議に毎回出席しており事業所の状況も把握し、日頃から相談できる関係が構築されている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束については勉強会などで、スタッフ全員が理解・把握できるようにしている。施錠はしておらず、入居者様が自由に散歩できるように支援している。	
			(外部評価) 身体拘束については研修会や勉強会で理解を深めている。また、ショートミーティング等で拘束をしないケアについて職員間で話し合い、意見交換等をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 高齢者虐待防止法については、職員が研修会に出席し、学ぶ機会を設けている。またショートミーティングの時間に意見交換なども行い、未然に防ぐよう努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修会やケアマネ連絡会などに管理者や職員が積極的に出席し、学ぶ機会を持ち、必要時に活用できるようにしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約または解約、改定などの時には入居者様やご家族様に不安や疑問について聞き、十分な説明を行い、理解、納得して頂けるよう努めている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族会や来所時には、こちらから積極的に声かけし、意見、要望をお聞きするようになっている。玄関の意見箱にはいつでも自由に投稿できるようにしている。	
			(外部評価) 職員から面会に訪れた家族へ声をかけ利用者の様子を伝えるようになっている。家族会を開催する等、家族が意見や要望を話しやすいよう雰囲気づくりを心がけている。聞き取った意見や要望は、記録をして全職員が把握し、サービス向上に反映させている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 毎日のショートミーティングや月に1回のユニット会議の場で、職員は意見や提案をし、本部で2週間毎に開かれる管理者会議でその旨を発言、報告している。</p> <p>(外部評価) 毎日のミーティングや月1回のユニット会議等で職員が意見や提案を出すこともあるが、管理者は日頃から職員に声かけをし、意見や要望を言いやすい環境を整えるよう努めている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 個別での面談を行うことで、各自がやりがいの持てる職場環境や条件の整備に努めている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 全職員に積極的に外部研修に参加するよう促し、参加者にはレポートを作成してもらい、知識や情報を同水準で共有できるよう努めている。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) グループホーム連絡協議会や地域包括支援センター主催の会には参加し、他事業所との意見や情報の交換を行っている。すみれグループの各事業所については、管理者会議を通じ、ネットワークづくりをしている。</p>	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 生活歴や既往歴を踏まえて、本人の行動を把握し今不安に思っていることや困っていることを探り、解決できるように努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族の要望や不安に思っていることに耳を傾け家族が納得されるまで話し合い、信頼関係が構築できるよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人と家族の話しから今必要としているサービスを探り、提供できるよう努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 家事などを一緒に行うことで教えて頂くことがある。また本人ができないことはさりげなくお手伝いさせて頂くことで共に支えあう関係を築いている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 来所時や電話にてできるだけ情報や要望を聞き、理解した上で一緒に考え協力を得ながら、支えていけるよう努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みの美容室や病院なども希望により引き続き利用している。また電話での取り次ぎや面会も自由にして頂き、これまで大切にしている人や関係が途切れないよう支援している。  (外部評価) 今まで利用していた美容院等の馴染みの場所に出かけ、馴染みの関係が継続できるよう支援が行われている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 入居者同士の関係については、職員がさりげなく間に入ることで、トラブルなどを未然に察知し、防ぐようにしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 次所にはサマリーを提供し、環境変化を最小限にできるように頂いている。契約終了後も必要に応じ、相談にのれるような態勢を作っている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 入浴や食事などの希望にできるだけ応えるようにし、本人の生活のペースを大切にしている。  (外部評価) 思いや意向を伝える事が困難な利用者については、表情や普段の様子等から思いを汲み取り利用者本位のケアが提供できるよう努めている。利用者一人ひとりの思いや希望を大切にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 生活歴シートを作り、ケアプランに反映している。また、毎日ケアチェック表を活用し、経過の把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 介護記録にはできるだけ細かく記録し、申し送りや毎日のミーティングで問題点や個別の支援方法を話し合い、実行するようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 職員一人ひとりが担当をもっているが、情報を共有した上でそれぞれ意見を出し合い、本人や家族の希望を取り入れながら作成している。	
			(外部評価) 利用者と家族の意見を聞きながら担当者を中心に職員で話し合いを行い、利用者の現状に合った介護計画を作成している。毎日記録する利用者一人ひとりのケアチェック表で介護目標が確認できるように工夫されており、常に意識してケアが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 具体的に会話内容や精神面・身体面など気づいたことを記入し、職員間で情報を共有しながら、毎日のケアにも活かすようにしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人や家族から希望がある時は、ホームで出来る限り通院介助や買い物などを柔軟な対応をしている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域行事に参加し、地域資源との共同を図っている。また、入居者が外に出られ、行方が分からなくなった時は、町内放送をお願いし、地域に協力して頂けるようにしている。	



自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 日頃から、本人や家族の希望を大切にしている。入居 前には馴染みの病院に行かれている方もおられたが、 現在ほとんどの方は医療連携をとっているクリニック の往診を受けている。</p> <p>(外部評価) 希望によりほとんどの利用者が事業所の協力医をかか りつけ医としており、2週間に1回の往診を受けてい る。専門科については今まで受診していた医療機関を 継続して受診する利用者もあり、利用者と家族の希望 を大切にしている。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 看護食にも随時相談しているが、往診表を作り活用し ている。それにより適切な往診が受けられるようにし ている。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 入院した際には、できるだけ面会に行き、病院関係者 との情報交換や相談を行い、家族との連絡も密にして いる。ムンテラの際にはできるだけ家族と一緒に参加 し、その旨はかかりつけ医に報告している。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 重度化した場合の方針については、事前に家族と十分 に話し合いを行っている。その時、ホームでできるこ とについては家族に説明し、了解を得ている。</p> <p>(外部評価) 看取りの指針を作成し、職員への教育も行い看取りや 重度化に対応できるよう体制を整えている。看取りに ついてのアンケートを実施し家族の意見や要望を把握 している。事業所ができる事を説明し、可能な限り家 族の希望に沿えるよう話し合いながら支援に努めてい る。</p>	<p>状態や状況の変化に応じて繰り返し話し合いを行い、 利用者や家族の意向を確認しながら看取りのケアが行 われるようさらなる取り組みに期待したい。また、重 度化や終末期の対応について職員教育を今後も継続し て行うよう希望したい。</p>

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急時の対応については、ホーム内で勉強会を行ったり、外部研修にも参加し、実践に役立つよう心がけている。夜間など、人員が減った時も連携を図れるようにしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的に西消防署の署員に来て頂き、訓練・指導をしてもらい、火元や避難場所の設定も行っている。  (外部評価) 地震や津波が起こった場合に備えて話し合いを行い、マニュアルを作成している。また、居室のテレビや家具を固定したり、数日分の備蓄を準備している。今後は地震想定訓練を行う予定である。	さまざまな場面を想定しての地震対応の避難訓練を地域と連携して行い、安全確実に避難できる体制を整える取り組みに期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 赤ちゃん言葉や命令口調になっていないか職員間で話し合い、注意している。人生の先輩ということを常に頭に置きケアに努めている。  (外部評価) 利用者に対して思いやりの心を大切にし、一人ひとりの人格を尊重し優しく寄り添い、自己決定しやすい声かけを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 出来る限り、選択肢の多い中で、自分で決められる「開かれた質問」をするよう心がけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 本人の生活のペースを大切にして、入浴や食事の希望にできるだけ添えられるようにしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 本人の希望に添った髪型や服装などの身だしなみや清潔の保持に配慮している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) すべての入居者と話しができるよう職員を配置し、楽しい雰囲気づくりに努めている。食事中の会話からも本人の好みなどを探るようにしている。  (外部評価) 食事は利用者の好みを取り入れながら、職員手作りのバランスの良い食事となっている。利用者と職員と一緒にテーブルを囲み、会話をしながら楽しい食事の時間となっている。支援の必要な利用者には優しく寄り添い、利用者のペースに合わせて介助が行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量や食事内容を一人ひとりの状態や好みにより変えているが、栄養バランスにも配慮している。居室にペットボトルに白湯やお茶を入れ、自由に飲めるようにしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後には、口腔ケアを行っている。出来るだけ自分でして頂くようにしているが、不十分なところがないよう職員が仕上げを手伝うこともある。口腔内の観察もしており、異常が見られたら、歯科医の訪問診療も受けている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄管理表を活用して排泄パターンを探り、訴えのない方は時間誘導し、できるだけ失敗やオムツ内の排泄とならないよう支援している。	
			(外部評価) 排泄パターンを管理表で個別に把握し、できる限りトイレで排泄できるよう声かけや誘導を行っている。便秘対策にも力を入れており、気持ち良く排泄できるよう支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 運動や水分補給の声かけをし、食品も乳製品や食物繊維を多く摂れるよう工夫し、薬や浣腸に頼らないようにしている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 特に希望のない方は、曜日や時間帯を決めていない。ゆったり話しながら入浴を楽しんで頂けるよう支援している。	
			(外部評価) 週に2～3回の入浴を希望に合わせて行っているが、状態によって足浴等を行っている。入浴の苦手な利用者に対しては声かけのタイミングを工夫し、気持ちよく入浴してもらえるよう支援している。浴室にはリフトが設置してあり、利用者の状態に合わせて安全に入浴できるようになっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) パジャマ・寝具は清潔に保ち、気持ちよく眠れるよう支援している。温度・湿度・騒音（環境整備）などに配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬ボードやファイルを作り、わかりやすい工夫している。病状の変化があった時は、早急にかかりつけ医の指示を仰ぎ、薬の変更などについてはその都度、口頭や記録などで連絡が漏れないようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 本人の生活歴を大切に、好きなことや嗜好品を出来るだけ続けられるよう支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 車椅子でも散歩できるよう敷地は整備され、車での外出についても下見を行った上で実行している。地域の方々が協力して下さり、運動会や盆踊りなどでの地域行事では優先席も準備して頂いている。	
			(外部評価) 日常的に近くのスーパーに買い物に行ったり、生演奏が聴ける喫茶店に出かけている。また、利用者の希望により動物園に出かける等、利用者本位の外出ができるよう努めている。海が見渡せる高台に位置しており、広いテラスに出て日光浴を楽しむことができる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 自分で金銭管理が出来る方は、家族の了解を得て、自由に使えるよう所持して頂いている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話の取り次ぎはもちろん希望により家族に電話できるようにしている。個人で携帯電話を所持している方もおられる。手紙についても、書いて頂いたものはポストへの投函はお手伝いしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 廊下やリビングは広く、落ち着いて過ごせるつくりになっている。また、浴室やトイレ以外も清潔に気を配っている。リビングの壁は一角は季節感のある飾りつけをするようにしている。	
			(外部評価) 食堂の大きな窓からは海を見渡す事ができ、明るくて広い共用空間が確保されている。テーブルには花を飾る等季節感を取り入れ、温かい雰囲気づくりがされている。また、ソファが設置され、思い思いの場所でゆっくりと過ごせるように工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビングにはソファが置いてあり、いつでも自由にくつろげるようにしている。ベランダには、ゆっくりと座って景色を眺められるようベンチも設置している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室には、昔から使っている物など、馴染みのものや入居後に買い揃えた物もあり、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
			(外部評価) ベッドとダンスは備え付けである。昔から使っている物や馴染みの物を自由に持ち込み、居心地のよい居室づくりがされている。利用者が写っている行事や外出時の写真が飾られ、落ち着いた雰囲気の中で寛ぐことができるよう工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 一人ひとりの「できること」の把握に努め、それらを活かし、自立した生活を送ることができるよう手すりをつけるなどの環境づくりをしている。	